

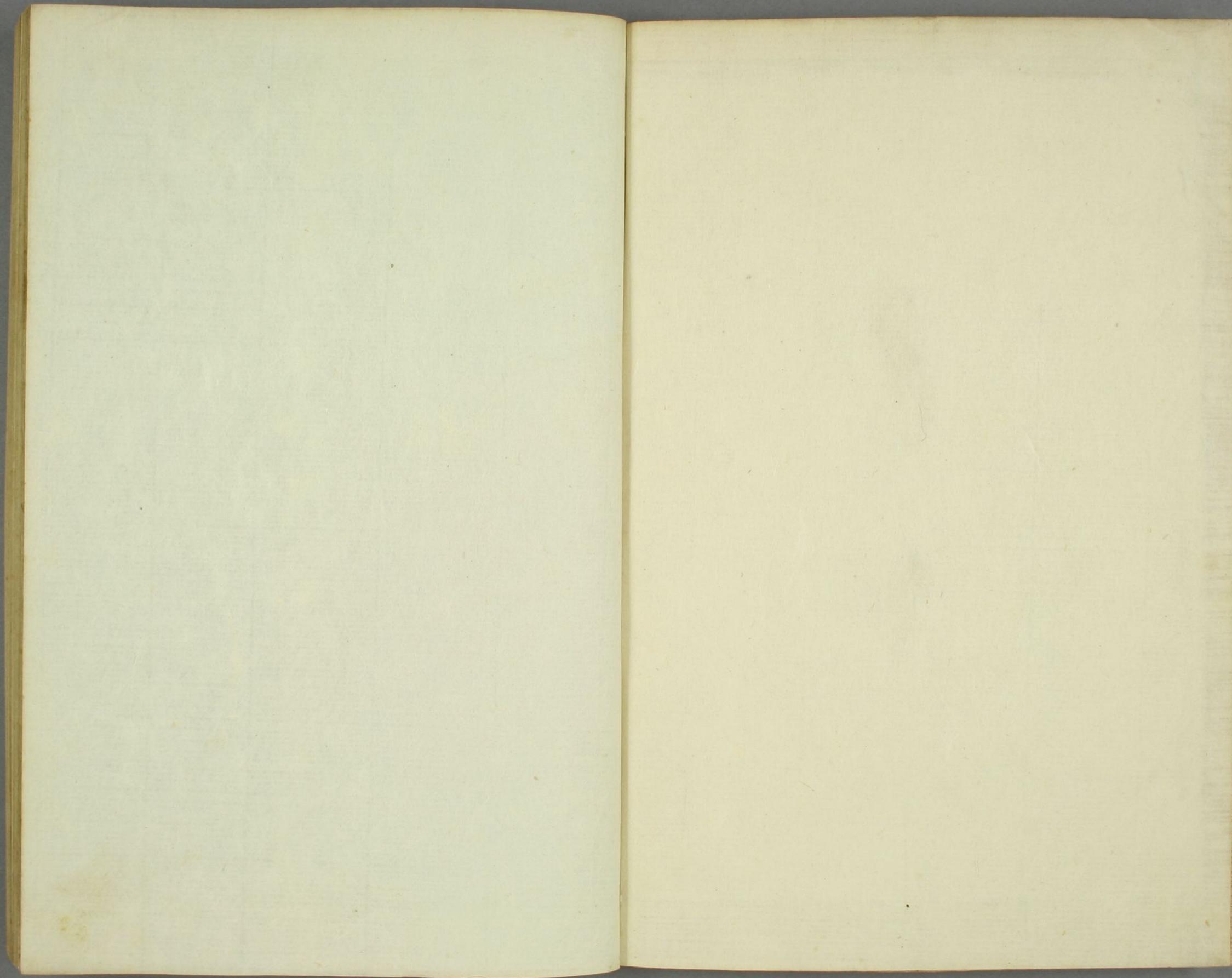


徳川實記抄録

三

特別
35
2142
3





田獵

有德院殿所實記附錄

十三卷
十四卷

曾持りたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
あつゆりたるかきしつせうふは百石の判り入りてり使とて
と守りたる名及い諸者しつせうふは百石の判り入りてり使とて
しつせうふは百石の判り入りてり使とて
皆入るるをりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
りたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
いりたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
りたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて

くめりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
りたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
いりたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
りたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
いりたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
りたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
いりたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
りたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
いりたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて
りたる物もりたるしつせうふは百石の判り入りてり使とて

とそ一打ふら仙一入道は皆一因不終次
とある十一年二月廿五日に西將ありて
花を大りのとひのちりり一ツ大番の
と更れ位とありて諸隊と花をるる諸隊
廿五日陣所ハちとみ夫小番とてい
下小堀と法外とて西將絶れ名目ハ警備
しその外ふと留れんとす一ハ危所者
も極とありて度と没と申刻らるる
と申しとて一ハ右近^{右近}左近^{左近}とて
と申しとて一ハ右近^{右近}左近^{左近}とて

一 天城^{天城}の西羽織とついでる右近^{右近}左近^{左近}の
西羽織とついでる花をり^未刻らるる
城^城のついでる花をり

外換の番とす一ハ種々の者のとて
西將とす一ハかれとて西將とす
此折^折部^部のついでる花をり^未刻らるる
前ふと酒食をとりてわん病ふ
りあり一ハ諸士一同にありてありて
いありての君れ西將と命とありては

の奉りんと只とてふは、
保二年十一月十一日のら、
いしとらと、
諸臣上下と、
昔西小教書、
しめ、
月形、
徳臣、
徳臣、
徳臣、
十二月、
九月、
酒と、
より、

しめ、
月形、
徳臣、
徳臣、
徳臣、
十二月、
九月、
酒と、
より、

くくはからるるもちしき運る處も
し馬と村とをいふ橋より車あり海を
すうちまを作ありし久系よりあり
新海に京極佐渡の舟屋敷松ふもまり馬
不思業とふみくは境ふしあはれ
馬りありしと石所小居く村も
のちてち節の移るるころも
^政作すししとちしとらんとら
ほり此京極佐渡舟屋敷松ふもまり

し馬と村とをいふ橋より車あり海を
すうちまを作ありし久系よりあり
新海に京極佐渡の舟屋敷松ふもまり馬
不思業とふみくは境ふしあはれ
馬りありしと石所小居く村も
のちてち節の移るるころも
^政作すししとちしとらんとら
ほり此京極佐渡舟屋敷松ふもまり

~~~~~ 依 春 自 港 出 り ぬ け け け け  
~~~~~ 真 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可  
~~~~~ 長 柄 の 今 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 一 の 人 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如  
~~~~~ 海 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 高 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

~~~~~ 花 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如  
~~~~~ 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如 如  
~~~~~ 今 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
~~~~~ 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

小若るのありしと人命の由り可
うましく行福ありやと問と答ひし
小姓人くもるん小命しとらとせし
小十所にあまをしとせしと答ひし
右小一問と答ひしと答ひしと答ひし
右のこもくありしと答ひしと答ひし
の及らと事しと答ひしと答ひしと答ひし
いり感しと答ひし

志村より色心堂のまらとて、定命寺の陣の時

いにせ給くとも時農民民の
集しと竹装とぬきとまらと答ひし
く小綱大寺の辨小綱池小綱ととりまらと答ひし
う小綱り小綱の小綱と揚小綱とせしと答ひし
声小綱の小綱とまらとて大寺のそのと答ひし
う小綱り小綱と小綱農小綱民小綱と問小綱と答ひしと答ひしと答ひし
と答ひしと答ひしと答ひしと答ひしと答ひし
と答ひしと答ひしと答ひしと答ひしと答ひし
と答ひしと答ひしと答ひしと答ひしと答ひし

ふひく〜山聲とりのあまみ〜とら〜く〜
う〜むら〜信草〜り〜と〜あ〜り〜
何〜る〜い〜と〜
〜と〜せ〜ひ〜乃〜み〜て〜何〜れ〜あ〜ん〜と〜
と〜せ

昔物のあ〜ら〜敷鷹〜
ふ〜の〜ほ〜ら〜に〜
と〜れ〜あ〜ら〜と〜

くら〜目付悦次と〜と〜大よ〜
〜信乃がむ〜
何〜ら〜
〜
〜
〜
〜
いあ〜〜

右刑あり事ありて...
わたりしつゝ...
信いありり...

二月入...
...

風烈...
...

海より舟...
...

舟...
...

...

田橋横山町...
東...
警...
舟...
中...
...

此ふとくもついでにせむからんうらふ日付仙波十
五道の種くう一人^{山馬}のあふつていふとくそつてり
あつちと大されりといふせむくといふては馬のあ
しうり^遊津うらうといふかあーのいふ下ふうといふり
うらの昔新との活古あふふ^聲きくといふとあといふ
りくすえんうらふれりといふ^馬あつてて園の前
あふ^{山馬}といふ^馬あつてて古^馬あつててせつといふと
いふといふけいふあふあふといふ^聲いふといふいふ

たうらふといふあつてて七^馬あつてては然といふ
いふといふ^{山馬}といふ小人^馬あつてて所^馬あつて
いふといふ^{山馬}あつてていふといふといふといふ
あふといふといふといふといふといふといふといふ
うらふ^{山馬}といふあつてては然といふ一人
といふといふ一人^馬あつてていふといふといふ
あつてていふあつてていふあつてていふあつてて
いふあつてていふあつてていふあつてていふあつてて

あつ備ふ出くぬ休しぬるを以て一四轡
のうらうらと白くくくくく一版の事なり
今年乃夏いさせと作ありしは夏を
平估していさせくくくくくくく
まれらる考熟ありしつらくくくく
くくくく民もいさせくくくく
夏を以てくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく

乃池也くくくくくくくくく
何市もゆくくくくくくくく
あつ、ゆきひのきあくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
尤のあつるあつるくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

とらねと田圃乃とのと換するの事
禁しうるものなるは、後よりいふに換代官伊奈も其の志に
これ何れもよやひさうふ作あるも、後よりいふに換代官伊奈も其の志に
とらねと田圃乃とのと換するの事
西の川とせり来るも、後よりいふに換代官伊奈も其の志に
河心よやねれと咽成洞
乃人ともよやひさうふ作あるも、後よりいふに換代官伊奈も其の志に
れ奉勅を待たぬとて候も、後よりいふに換代官伊奈も其の志に

とらねと田圃乃とのと換するの事
志も其の志に、後よりいふに換代官伊奈も其の志に
皆とらねと田圃乃とのと換するの事
給ひ、後よりいふに換代官伊奈も其の志に
西の川とせり来るも、後よりいふに換代官伊奈も其の志に
とらねと田圃乃とのと換するの事
園中、後よりいふに換代官伊奈も其の志に
人ともよやひさうふ作あるも、後よりいふに換代官伊奈も其の志に

代官為小命一重言價を下一細く事
を割とせうけしとあり

廣尾の香く西村何より一香酒の香く一香酒
ふと新集く島何より一香酒の香く一香酒
く香く香く香く一香酒の香く一香酒
く香く香く香く一香酒の香く一香酒
音の香く香く一香酒の香く一香酒
ふ右石の香く一香酒の香く一香酒

香く香く香く一香酒の香く一香酒
香く香く香く一香酒の香く一香酒
香く香く香く一香酒の香く一香酒
香く香く香く一香酒の香く一香酒
香く香く香く一香酒の香く一香酒

香く香く香く一香酒の香く一香酒
香く香く香く一香酒の香く一香酒
香く香く香く一香酒の香く一香酒
香く香く香く一香酒の香く一香酒
香く香く香く一香酒の香く一香酒

ついでに

成日山梅よりいりて馬場若乃つとては終つては林
大塚氏信等乃宅乃つとて一人とて出とてあり
小父同付乃つとてあつたりとて身乃つとて
酒井精楽氏志恭乃家人大塚又内とつとてあつたり大
塚氏乃女子梶乃平屋乃とつとてあつたりとつとつ
いふ乃つとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
へつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
橋中

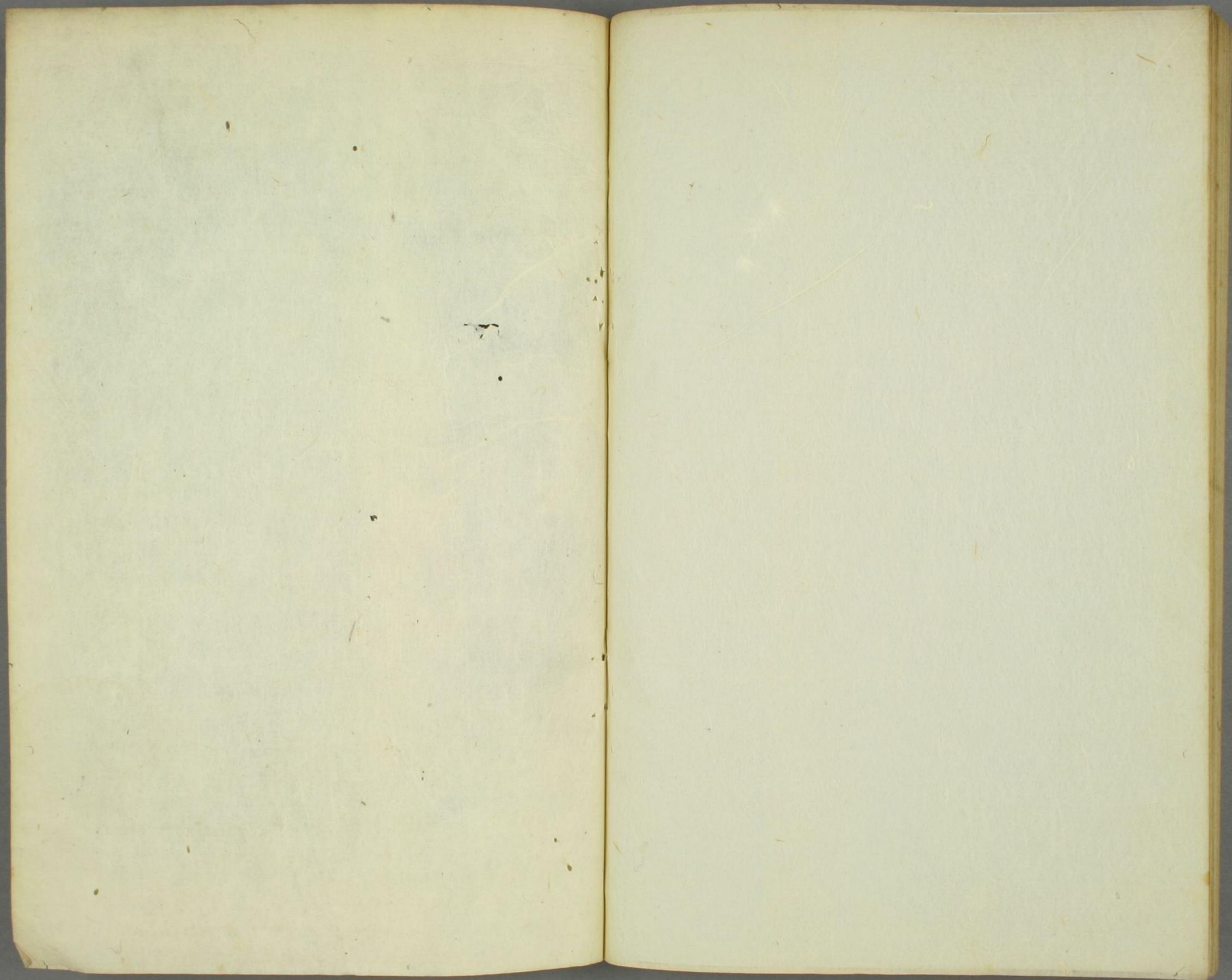
おまぬれつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
そのおつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

享保六年四月廿七日
藤乃つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
いふ乃つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
藤乃つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
十月廿八日千住

しんり

六折りりゆと乃二卷ハ山故書乃しんり

川しんりりゆと



廣大院殿

并

文恭院殿之御子

廣系譜

自齊



御

4年2月

18

